満州事変

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿ 月 ＿＿＿＿ 日

平安　鎌倉　室町　安土桃山　江戸　明治　大正　**昭和**　平成

今日の問い

満州事変は、日本と国際社会の関係をどう変えたのだろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 満州事変と満州国

関東軍の行動

1 満州に置かれていた日本の軍隊。

2 1931年、関東軍が南満州鉄道の線路を爆破した事件。

4 1932年、日本が満州につくった国。

日本は日露戦争後、南満州鉄道などの権益を満州にもっていた。昭和恐慌で苦しむ日本では、満州の資源や土地に期待する声が高まっていた。中国では国民政府のもとで統一が進み、満州の権益を取りもどそうとする動きが強まった。すると満州にいた日本の軍隊である [1] **関東軍** は、満州を日本の支配下に置こうと考えた。1931年9月、関東軍は奉天(今の瀋陽)の近くの柳条湖で南満州鉄道の線路を爆破し([2] **柳条湖事件**)、これを中国軍のしわざとして軍事行動を始めた。これが [3] **満州事変** である。

関東軍は、戦いを広げないという政府の方針に従わずに戦線を広げ、満州の主な地域を占領した。1932年には清の最後の皇帝だった溥儀(ふぎ)を元首として [4] **満州国** の建国を宣言した。しかし政治の実権は日本人の役人や関東軍がにぎっており、日本の言いなりの国だった。首都は新京(今の長春)に置かれ、溥儀は1934年に皇帝となった。日本から多くの農民が移り住むなど、満州開拓も進められた。日本国内では、新聞も軍の行動を支持し、多くの国民が満州国を歓迎した。

柳条湖事件(りゅうじょうこじけん)　1931年 線路を爆破 ▶ 満州事変　関東軍が戦いを広げる ▶ **満州国**　1932年 溥儀が元首

2 国際連盟脱退と孤立

国際社会の反応

5 第一次世界大戦後につくられた、世界の平和を守る組織。

6 国際連盟が満州に送った調査団。

7 日本が1933年に国際連盟へ通告した。

中国は日本の行動を [5] **国際連盟** に訴えた。連盟は [6] **リットン調査団** を送り、調査をもとに、満州国は住民が自発的につくった国とは認められないという報告をまとめた。1933年の連盟総会は、この報告にもとづいて満州国を承認せず、日本軍に引きあげを求める案を、圧倒的多数で可決した。日本の全権だった松岡洋右は、採決の結果を受けて会場から退場した。

これに反発した日本は、1933年3月、国際連盟からの [7] **脱退** を通告した。日本は連盟の常任理事国だったが、脱退は1935年に正式に効力をもち、日本は国際社会で孤立していった。国内では軍の力が強まり、満州は「生命線」だとする考えが広まった。

できた ＿＿＿ /7

学校・家庭・塾・教室での印刷と配布は自由です。ウェブへの掲載・販売はできません。